

Mランドニュース Vol. 64

丹波ささ山校 平成24年7月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

《今月の言葉》

「教育を衣食住のためにする人を教員
という。知識、技術をさずける人を教師
という。そして、子どもの心に火を点す
人、これを教育者という」

徳永康起先生

(松岡浩の人生道場・前編)より

中国山脈横断

一〇〇キロウォーク

六月九日、十日、広島県戸河内町からミランド益田校(島根県)まで、標高差が約八〇〇メートルの過酷な道程一〇〇キロを歩く第四回中国山脈横断一〇〇キロウォークが行なわれました。

参加者一九四名の中に、篠山からインストラクター二名と卒業生を含む十二名が果敢に挑戦しました。

一〇〇キロウォークに

挑戦して

村越 政美 様

今回、一〇〇キロウォークに初めて参加させていただきました。そこで感じたことは正直歩き始めの時は、「しんどい」、「辛い」と思うことが多く、「自分は何で参加したんだろう?」ということも考えました。しかし、歩いていると地域の方が車中から声援を送って下さったり、参加者同士で声を掛け合ったりしていくうちに自分は一〇〇キロウォークという大きな壁を乗り越えようとしていることを実感することが出来ました。

そこから、「自分は出来る」という自信を持つようになり、一〇〇キロ完歩に繋がったと思います。完歩し終わった後は、日常生活が当たり前と思わないことが大切だと思えました。便利になりすぎてこの世の中だからこそ、何気なく乗っている車や電車の有り難みが分からなくなっていると思います。また、家に帰れば優しく迎えてくれる家族の存在など感謝の気持ちを忘れてはならないと思えました。



必死に歩き続ける筆者

本日にこの一〇〇キロを完歩出来たことは私にとってもただ単にいい思い出として残るだけでなく、考え方や感じ方さえも変えさせてくれました。是非、日常生活では感じるこの出来ないこの気持ちの変化をひとりでも多くの方に経験してもらいたいと思います。また、私自身も機会があればチャレンジ

したいと思えます。教習所の皆様、地域の皆様、応援ありがとうございました。ごさいました。



やったぞ! 感動のゴール(筆者・左)

今回、篠山から参加されたみなさんです。

八尾彰一様・啓佑様(親子)、卒業生の岸本雄也様、市野翔太様、村越政美様、宮岡希実佳様、山口大輔様と山口様のお友達の岡本優雅様、鞠子茂樹様、谷口洋平様の十名の方々です。

参加されたみなさんが必死にがんばる姿は、私たちに勇気と感動を与えていただきました。ありがとうございました。



断念途中で途中雪辱を誓う市野様

学科教習競技大会

六月二十九日、兵庫県交通教育センターにおいて、第四回学科教習競技大会が開催されました。

仕事、スポーツ、趣味でもみられるように私たち教習指導員にも、技能教習が好きな人、学科教習が好きな人等が当然出てきます。特に学科教習は、多くのゲストを前にドライバーとして大切なことを全てのインストラクターがカラーを出しながら、より心に伝わるものでなければなりません。

以前にも『環境月』と題して、Mランドではスタッフを前に『教習項目』や『趣味』について、スピーチの向上を目的とした研修を重ねております。そこで他校の取り組み方も実際に見ることで得られるものもあると考え、県下六十校のうち出場校九校の中、Mランド丹波ささ山校の代表として、学科チームの長谷川インストラクターに出場していただきました。他校に負けない落ち着いた話し方は長谷川インストラクターの持ち味でもあり、堂々と

したスピーチでした。ゲストに命を大切にドライバーになっていただけたらいいと思います。ただきたいと思っています。(管理者 永井 興喜)

他校のインストラクターの手法を見せていただくことでいろいろな面で刺激を受けました。同じことの繰り返しにならないよう、一時限を大切にゲストと向き合う学科を創っていきます。

また、Mランドでは全てのスタッフが学科教習を始める前に「一所懸命学科教習をします。良かったと思ったらそれに見合う拍手をして下さい。」と説明し、終了時には「私の学科はどうでしたか?」とゲストから評価をいただいております。話しをして終わりではなく、どれだけ熱意が伝わるかです。この度の経験を生かし、さらに自分を磨いてゲストに伝わる教習をしていきます。(長谷川 泰之)



普段の学科を心がけて!

うわー!! きれい!!

篠山のような自然に囲まれた地域では、都会では感じる事の少ない四季の変化を楽しむことができます。梅雨の時期、とかく我々人間は「うっとうしいな」と感じる人も少なくありませんが、山やコースの木々は今が盛りとあざやかな緑を見せてくれています。

そんな六月十八日の夜、ホーム生をお誘いして、篠山市曾地区の『ホテルの里』にお連れしました。毎年このですが、実際に見ないと分からないうつくしさです。



一緒に来た仲間たちと!

この地区では住民の方々がホテルが生息できるような生態系の維持に努力されておられます。この日は絶好の条件の夜で、ここ数年にないホテルの数です。一面の葎か

ら湧きあがってくる無数のホテルにみなさん言葉もありません。暗闇の中、保存会の方が懐中電灯を手に『ホテルの一生について』の説明をしておられ、ホテルに対する思いが伝わるお話に他から見学に来られた方たちと一緒に、私たちもしばし我を忘れて聞き入っていました。



ホテルの話に聞き入ってます!

篠山に来てホテルのうつくしい光を見たことをゲストの方々に一生忘れないでいただきたいと思いつつ、Mランドに帰ってきました。

(井本 徹)

お茶をどうぞ!

Mランドでは毎週木曜日に、二階の『三宝庵』でお茶席を設けています。運転の知識や技能だけでなく、心の成長も図っていただきたい

との思いでお茶席を始めました。毎週木曜日の十時から十五時まで、抹茶とお菓子ををご用意しています。

三宝庵に飾っている額にも書いてありますが、『一期一会』の精神でお客様のおもてなしをさせていただいています。お客様はお茶を知っている方、初めての方と様々です。お茶という構えてしまう方もいらっしゃいますが、気軽に飲みに来てもらえる場を、と考えています。



お茶席の「三宝庵」です

お茶は隣の席の方に、「お先に頂戴します。」と言ってから頂きます。これは他人に譲る心を大切にしているからです。

先生に教えていただいた一年半ほどになります。三年やって一人前という世界です。まだまだ未熟ですが、一通りのことが何とか一人で出来るようになりました。たくさんの方の前で、お手前

を披露するのはまだまだ緊張しますが、それでも無の世界に入ることが心地よく感じることもあります。



美味しいお茶を飲んでみたいという心でお茶を点てております



どんな味かな?

Mランドフェスタや五十周年記念式典でもお茶席を設けました。大きなイベントの際には必ずお茶席を用意しています。いつもと違った雰囲気でお茶をお出しします。

慌しい生活の中で、ほっとできる静かなひと時を味わってみませんか? きつと新しい気づきがありますよ。

(中島 智美)

ミロのおすすめ!

教習生はもちろんのこと、地域のお客様にも親しまれているミロですが、毎日日替わりでランチを食べていただけます。冷しゃぶ、ビビンバ、ピーマンの肉詰め等... 皆さんは何を食べてみたいですか?

今回、夏限定メニューが出ました! 和風オムライスです。赤、緑、黄色のコントラストで夏にぴったりです。大根おろしとシソがさっぱりしていて、さらにその上に梅干しがトッピングされています。中はシソご飯で外のとろっとした卵とのバランスが絶妙です。さっぱりと胃に優しいので、暑い夏にぜひ食べてみてください。食欲がない時でも

食べやすいですよ。サラダとコンソメスープがきます。

期間は夏の終わりまでで、価格はランチタイム(十一時三十分から十四時三十分まで)なら五百円で召し上がれます。その他の時間ですと七百円になります。他にも忙しい時にさっと食べられるすだちおろしうどんやフロートなど、夏にならないと食べられないメニューが続々登場します。是非食べに来てください。



夏限定! 和風オムライス

編集後記

梅雨とはいいいながら、ここ丹波地方ではおだやかな六月を過ごしてきました。掲載しましたように六月も昨年と同様の行事もあります。同じことの繰り返しにならないよう、何ことも昨年よ

りも今年、今年よりも来年とスタッフの意識を感じた六月でした。(徹)



みんなの願いを短冊に!